

竜巻が迫ってきたら

住宅内では

- 窓は閉め、カーテンも閉める。
- 雨戸やシャッターを閉める。
- 家の中心部に近い、窓のない部屋に移動する。
- 地下室や建物の最下階に移動する。
- 低い姿勢を取り、両腕で頭と首を守る。



屋外では

- 近くの頑丈な建物内に避難する。
- 車の中、物置や車庫・プレハブの建物などには逃げない。
- 近くに頑丈な建物がない場合は、水路や溝などくぼんだ場所（急な豪雨に注意）や物陰に身を伏せ、両腕で頭と首を守る。

オフィスビルなどでは

- 窓のない部屋や廊下へ移動する。
- ガラスのある場所から離れる。
- エレベーターは停止するおそれがあるので乗らない。
- 低い姿勢を取り、両腕で頭と首を守る。



大雨や土砂災害に関する気象情報の入手方法

福岡管区気象台ホームページの利用例

大雨の気象情報を確認する場合

- 1 「福岡管区気象台」のホームページにアクセスする
- 2 「最新の情報」の中にある「防災気象情報」をクリックする
- 3 「警報・注意報発表状況」をクリックする
- 4 九州地方の地図が表示されるので、「福岡県」の上にマウスを載せてクリックする

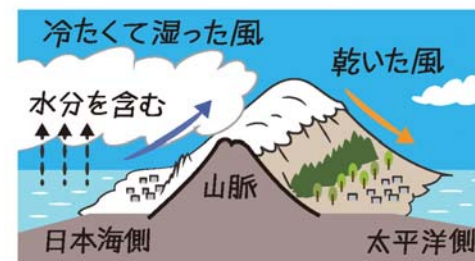


5 福岡県の市町村リストが表示され、現在発令されている大雨警報・注意報などを確認することができる

6 さらに、リストから該当市町村を選択すると、注意報や警報が発表されていなくても「警報級の可能性」が確認できるほか、詳細な気象情報を確認することができる

大雪の基礎知識

冬の代表的な気圧配置は、日本列島をはさんで西に高気圧、東に低気圧がある「西高東低」です。冬になると、大陸の高気圧から冷たく乾いた北西の季節風が日本列島に吹いてきます。この冷たい風は温かい日本海から大量の水蒸気を吸収して雪雲をつくり、日本海側で雪を降らせます。雪を降らせた後の乾いた空気は、日本列島の中央を走る高い山脈を越えて太平洋側に吹き下りていきます。このため太平洋側では冬は晴れやすくなります。



雪のもたらす災害

毎年、全国各地で大雪による被害が出ています。降雪地域だけに限らず、都心部でもさまざまな被害をもたらすことがあります。

人への影響

- 路面凍結に伴う車のスリップ事故や転倒などでの重軽傷
- 除雪が追いつかず、町内や集落で孤立状態に
- 外出先からの帰宅困難



住居への影響

- 雪の重みや大量の雪解け水による損壊や浸水などの家屋被害
- 停電、断水、固定電話の不通
- 車庫（カーポート）の屋根の崩落

交通への影響

- 高速道路や国道など道路の通行止め
- 鉄道の運転中止
- 飛行機の欠航

その他

- 公共施設の屋根が崩れ落ちる
- 農作物などの損傷、ビニールハウスの破損
- 携帯電話の使用不可

福岡県では

大雪

平成28年（2016年）1月23日から25日にかけての記録的な寒波により、山間部を中心に大雪となったほか、県内全ての観測地点（14か所）で最低気温が氷点下を記録するなど厳しい寒さに見舞われました。路面凍結などによる歩行者の転倒事故等が相次いだほか、水道管の凍結・損傷によって28市町村、22万842世帯（県発表、平成28年（2016年）2月9日）で断水となりました。